

1. 教育目標、学校経営の重点



令和元年度

教育目標・学校経営の重点

1. 教育目標

思いやりの心をもって、つながり合い学び合う子どもの育成

2. 学校経営の重点（中期的経営ビジョン）



～つながろう！つたえよう！つづけよう！～

○家庭や地域と共にあゆむ学校づくり

あいさつで家庭とつながる、地域とつながる

～あいさつで 笑顔いっぱい 三日市～

○子どもたちの笑顔あふれる学校づくり

確かな学力、豊かな情操・道徳心、健やかな身体を育み、自己有用感を高め、互いの違いを認め合える、三日市小学校を誇れる子どもの育成

3. 三日市小学校がめざす姿

めざす学校の姿

- 子どもたちがいきいきと学び合う学校
- 子どもたちにやさしさのあふれる学校
- 子どもたちが元気いっぱい活動する学校
- 子ども一人ひとりの人権を大切にする学校
- 子どもも大人も共に、学びを通してつながる学校



めざす子どもの姿

- 進んで学ぶ子
 - ・よく見て、よく聞き、よく考え、よく学ぶ子
 - ・自ら課題を見つけ、意欲的に学ぼうとする子
- 明るく元気な子
 - ・心と身体をきたえる明るく元気な子
 - ・健康や安全に気をつけて、規則正しい生活をおくる子

○心豊かな子

- ・お互いを尊重し、違いを認め合い、いじめを許さない子
- ・勤労の尊さや奉仕の心を大切にし、ねばり強くがんばる子
- ・道徳心、モラル、社会的常識をわきまえる子
- ・「ふるさと三日市（かわちながの）」を語れる子

めざす教員の姿

- 子どもの未来を最優先して教育活動を行う教員
 - ・子どもの成長を見通した日々の教育活動を
- 子ども一人ひとりを大切にする教員
 - ・子どもと向き合い、子どもに寄り添って子どもの話を丁寧に聞くことから始める
- 授業や学びの場を大切にする教員
 - ・深い教材研究、確かな指導技術、信頼ある評価力等、プロの教職員にしかできないことに誇りを
- 保護者にしっかりと寄り添える教員
 - ・ひざを交えた対話、緻密な家庭連絡、家庭訪問の重視
- 地域に根ざした「ふるさとの学校」として誇れる教員
 - ・子どもと一緒に地域のことを進んで学ぶ
- 「チーム三日市」でスクラムを組んで対応する教員

4. 今年度の重点目標

- I 新学習指導要領移行期最終年にあたる今年度、具体的・系統的・発展的な実践を積み上げ、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力等の育成を図る。また、学習意欲を高めるとともに、家庭学習の充実に向けて家庭や地域と連携した取り組みを進める
 - ・主体的・対話的・深い学びの追求（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）
 - ・ICT機器の積極的かつ効果的な活用（プログラミング学習の研究推進）
 - ・読書活動の充実（学校図書館のより効果的な活用等）
 - ・家庭学習の手引き等の検討
 - ・学習規律「三小っ子の約束」の徹底
 - ・まとめテスト等（分析・検証）の積極的な活用
- II 道徳教育の推進を図る
 - ～みんなでつくる道徳教育 聞きたい・伝えたい・わかりたい～
 - 学級づくりの基礎となる授業力の向上を図るとともに、新しい教科書及び道徳ノートの活用の仕方や評価のあり方について研究を進める。

- Ⅲ 学校をすべての子どもたちにとって安全で安心できる「心の居場所」とする
- ・子どもたち一人一人の人権が尊重され、互いの違いを認め合える、学校が安全で安心できる居場所になるよう人権教育の推進を図っていく。
 - ・生活指導体制の確立と小中連携や関係諸機関との連携を強化する。(全職員の共通認識、事前防止、早期発見、早期対応、事後対応)
 - ・将来の夢や希望を育み、キャリア教育を系統的に取り組む。
 - ・特別活動の充実(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校・学年行事等)
- Ⅳ 支援教育の充実(インクルーシブ教育システムの推進)を図る
- ・互いの違いを認め合える集団づくりに取り組む。(理解教育の充実)
 - ・子ども一人一人の教育的ニーズに応じて、適切な指導や必要な支援を学校として合的に行う。(通常学級、支援学級、通級指導の連携)また、保護者とのつながりを密にし、関係諸機関・施設とも連携し、支援を行っていく。
 - ・ユニバーサルデザインの考え方を活かした授業展開や学習環境を整える。
(「めあて」「展開」「ふりかえり」の提示の徹底や教室の掲示の仕方の統一など)
- Ⅴ 健やかな身体づくりの充実を図る
- ・発達段階等に応じた健康教育や体力づくりに向けて学校全体で計画的に取り組む。
 - ・学校での事故防止(授業中、行事、給食等)に向けて、マニュアル確認や指導の徹底を図る。
- Ⅵ 伝統・文化体験、外国との交流等、体験活動の充実を図る
- ・郷土・歴史学習の出前授業を活用する。
(※烏帽子形城跡でのフィールドワーク、てくてくウオークラリー等)
 - ・TV会議システムを利用した海外との交流授業を実施する。
 - ・アウトリーチプログラムの積極的な活用を図る。
- Ⅶ 積極的に家庭・地域との連携を図る
(それぞれの役割と責任を果たす「地域総ぐるみ」の土壌を)
- ・コミュニティ・スクールとして、家庭・地域・学校の教育力がそれぞれ機能を発揮する環境づくりを行う。
 - ・家庭や地域に積極的に学校の情報提供し、お互いに協力し合いながら健やかな子どもたちを育てる。
 - ・子どもたちの安全を確保するため、家庭・地域との連携を図りながら、全教職員が危機回避意識をもって教育活動にあたる。

5. 小中9年間で連続した指導体制づくり

○東中学校区の「めざす子ども像」や教育目標の共有化を図るとともに、教育活動全般における指導の一貫性や系統性をはかる体制を推進する。

< 東中学校区の共通にめざす子ども像 >

『心豊かに 進んで学ぶ 明るく元気な 子どもたち 』

<東中小中学校区の小中一貫教育スローガン>

～中学3年生の卒業の姿にみんなで責任をもとう！～

6. 働きがいのある学校をめざす

- ・「働き方改革」を学校全体で意識して教育活動を進めていく。
(業務のあり方の適正化、校務分掌の適切な割り振り、「チーム三日市」としての協働体制の確立、等)

